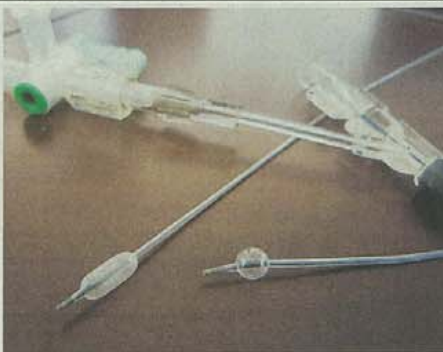




バルーン部分が俵型となった新カテーテル「アテンダントネクサス」(左)。右は従来品＝各務原市川島竹早町、テルモ・クリニカルサプライ

テルモ・クリニカルサプライ 新型カテーテル開発

肝臓がん治療向け 使いやすさ向上

医療機器開発製造販売「ネクサス」を開発し、売のテルモ・クリニカルサプライ(各務原市川島竹早町、星野正紀社長)は、血管内治療に使うマイクロバルーンカテーテルのバルーン部分を俵状にして使いやすさを向上させた新製品「アテンダント」%のシェアを持つトツ

「アテンダント」は、従来製品「デルタ」も、細く入り組んだ末梢血管まで管を進め、先端にあるバルーンを膨らませて一時的に血流を止めることができ、がん細胞に抗がん剤を集中的に投与できる。

新製品「ネクサス」は、球状のデルタのバルーンを長さ10ミ、直径4ミの俵状にして、膨張をさらにコントロールしやすとした。エックス線で確認できるマーカーストランドも追加。より多くの医師が利用できるように改良したという。

保険償還価格は1本当たり12万3千円。同社は「バルーンカテー

テル手法は今後も深化のニーズに「
する。より多くの医師として